SETSUNAN UNIVERSITY

バイオ・ライフサイエンス

キーワード：脆弱環境　暮らしの向上　生態系保全　地球開発

地域資源と在来地を活かす地域開発

農学部　食農ビジネス学科　教授
田中　樹　TANAKA　Ueru

研究の内容

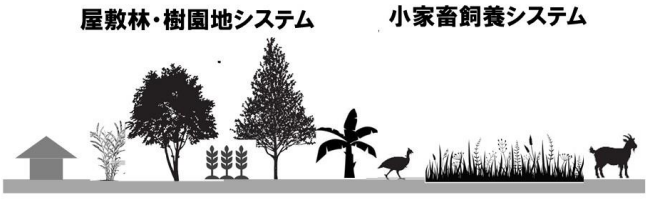
　アジアやアフリカの小規模農民（社会的弱者層）の支援および日本国内の地域活性化に向けた実践技術や開発アプローチの提案と案件形成

背景

　世界各地で人間活動の拡大と「貧困と資源・生態環境の荒廃の連鎖」が進んでいます。
また、地域社会では、高齢・過疎化により十分な対処ができない状況です。その影響は、脆弱環境（人間活動により容易に劣化する社会や資源・生態系の状況や場）や社会的弱者層（小規模農民や老齢者、少数民族など）に向かいます。これらに向けた実効ある地域開発の技術群やアプローチの創発と実践展開が求められています。

目的

　アフリカやアジアの脆弱環境において、暮らしの向上（貧困削減）と生態系保全の両方を実現する実践技術をつくり社会実装を目指します。
　その技術やアプローチは、社会的弱者層の参加余地を持ち、かつ、従来の「ヒトvs自然」ではなく「ヒトも自然も」の認識に立ちます。



貧困削減と生態系保全の両立：香辛料作物を軸とする在来の屋敷林・樹園地システムと家畜飼養システムの生業複合

主な成果

　砂漠化対処技術：収量増加と風食抑制を両立する省力技術「耕地内休閑システム」、在来技術ザイを活用する「半乾燥地植林での植栽樹の生存率向上技術」、インド在来犁とマメ科作物栽培を組み合わせる「農牧混交地域の植生回復と生業安定化」など。
暮らしの向上と生態系保全：東アフリカ在来の屋敷林・樹園地システムでのスパイス生産や家畜飼養システムの複合を通じての貧困削減と森林生態系の保全。

ベトナムの自然災害常襲地での地域レジリアンスの向上：小農民を豊かにする地域産品（在来ミニブタ、野生鶏交配種など）の形成

産学連携・社会連携へのアピールポイント

　アフリカやアジアでの貧困削減と生態系保全などを課題とする地域開発の案件形成や技術アドバイザリーを支援します。また、海外での経験を日本国内の地域活性化へと還流します。
　アフリカやアジアの風土や人びとに学び、地域資源や在来知を活用しつつ従来とは異なる位相の実践技術群や地域開発アプローチを創発し、社会実装する取り組みを行ってきました。その知見や経験を社会に戻したいと思います。

研究室名（環境農学研究室）

URL：https://www.setsunan.ac.jp/gakubu-in/nogaku/

お問い合わせは摂南大学 研究支援・社会連携センターまで
TEL:072-800-1160　E-mail:SETSUNAN.Kenkyu.Shakai@josho.ac.jp